

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ508A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	阪神の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本的風景を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「俳枕」とは 第3回 神戸の風景 第4回 神戸東部 第5回 神戸西部 第6回 兵庫県の風景 第7回 兵庫県北部 第8回 兵庫県南部 第9回 大阪の風景 第10回 大阪中央部 第11回 大阪北部 第12回 大阪南部 第13回 浪華の風景 第14回 神戸と大阪 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	MJ508B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	京阪奈の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。前期に引き続き、歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	高校までの学習と、大学以降で研究する学問との違いを理解した上で、より深く、日本的風景を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 淀川下り 第3回 京都の風景 第4回 洛北 第5回 洛中 第6回 洛南 第7回 京都県北部 第8回 京都県南部 第9回 奈良の風景 第10回 奈良中央部 第11回 奈良北部 第12回 奈良南部 第13回 平城京と平安京 第14回 日本的風景 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	地理的感覚を学ぶとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、日本的風景の魅力を説得力のある形で発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。 その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIA						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（品詞、語順、活用、格関係、文法カテゴリー①）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための演習・講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。						
到達目標	(1)日本語の文法に関する基礎的な知識を身につけ、発展的な討議ができるようになる。（知識・理解） (2)授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 学校文法について</li> <li>3. 品詞①（用言）</li> <li>4. 品詞②（体言）</li> <li>5. 品詞③（付属語）</li> <li>6. 語順①（形態的類型論）</li> <li>7. 語順②（文法カテゴリー）</li> <li>8. 語順③（数量詞）</li> <li>9. 活用①（活用の種類）</li> <li>10. 活用②（接辞）</li> <li>11. 述語と項①（意味役割）</li> <li>12. 述語と項②（格の階層性）</li> <li>13. ヴォイス①（受身、使役）</li> <li>14. ヴォイス②（その他）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んできてくこと等）に従って予習をしていくこと。（学習時間3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間1時間）						
授業方法	演習と講義： 内容によって、教員が講義形式で進めるものもあるが、基本的には演習形式で進める。 また、講義形式のときも、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。						
評価基準と評価方法	参加度（授業内での質疑内容を含む）50%（到達目標(1)に関する到達度の確認） レポート50%（到達目標(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習IIB						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	MJ510B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法の復習と理解の深化をめざして（文法カテゴリー②、複文、その他）						
授業の概要	本授業では、日本語の文法を復習しつつ、さらに知識や理解を深めていくための講義を行う。忘れていた事項や習っていない事項もあるかもしれないが、理解と知識の定着のために、丁寧に進めていく予定である。						
到達目標	(1)日本語の文法に関する基礎的な知識を身につけ、発展的な討議ができるようになる。（知識・理解） (2)授業内で学んだことをふまえ、日本語の文法に関する諸問題について自ら課題を見つけ、分析・考察することができるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 授受表現</li> <li>3. テンス</li> <li>4. アスペクト①（テイル形）</li> <li>5. アスペクト②（方言のアスペクト）</li> <li>6. ムード①（対事的）</li> <li>7. ムード②（対人的）</li> <li>8. 連体修飾</li> <li>9. 副詞と連用修飾</li> <li>10. 複文</li> <li>11. 主語と主題</li> <li>12. 造語法</li> <li>13. 指示詞</li> <li>14. 語用論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回で、次回の内容に関してどの程度理解があるのかの確認も含めて導入をするので、指示（用語の確認や、論文を読んできてくこと等）に従って予習をしてもらうこと。（学習時間3時間） 授業時だけでは知識の定着は望めないため、必ず復習をすること。（学習時間1時間）						
授業方法	演習と講義： 内容によって、教員が講義形式で進めるものもあるが、基本的には演習形式で進める。 また、講義形式のときも、受講生とのディスカッションによって議論を深めていくことを前提とする。						
評価基準と評価方法	参加度（授業内での質疑内容を含む）50%（到達目標(1)に関する到達度の確認） レポート50%（到達目標(2)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	授業に積極的に参加すること。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義IA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ506A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	Praatを使つての音響音声分析						
授業の概要	調音の仕組みを理解したのち、音声を機器で可視化する方法と、科学的実験を計画・遂行する方法とを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 調音の仕組みを掴む。</p> <p>b. 音声を機器で可視化する方法を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的実験が計画・遂行できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、修士論文の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 第1章の講読</p> <p>03: 第2章の講読</p> <p>04: 母音空間図の作成 (1)</p> <p>05: 第3章の講読</p> <p>06: 第4章の講読</p> <p>07: テキストグリッドに據るデータ作成</p> <p>08: 第5章の講読</p> <p>09: 第6章の講読</p> <p>10: 母音空間図の作成 (2)</p> <p>11: 第7章の講読</p> <p>12: 第8章の講読</p> <p>13: 第9章の講読</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>講義で知識を付けたのち、音声分析に臨む。</p> <p>パソコンを操作する時間が授業時間の大半を占める。</p> <p>音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した音声データの作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	<p>(1) 特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。</p> <p>(2) 個人用パソコン必須。</p>						
教科書	北原 真冬ほか (2017)『音声学を学ぶ人のためのPraat入門』ひつじ書房						

参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』 (岩波全書131) 岩波書店 小泉 保 (1996) 『音声学入門』 大学書林 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』 大修館書店 斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』 三省堂
-----	--

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	MJ506B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	アクセント、声調、イントネーションの理解と音響分析の実践						
授業の概要	アクセントと声調との違いを理解したのち、語彙的音調を音響分析するための方法を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. アクセントと声調との違いを掴む。</p> <p>b. 語彙的音調と文法的音調との違いを掴む。</p> <p>c. 音声を機器で可視化する方法を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的実験が計画・遂行できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、修士論文の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明。</p> <p>02: 東京式アクセントの特徴</p> <p>03: アクセント方言の音声分析 (1)</p> <p>04: アクセント方言の音声分析 (2)</p> <p>05: 上記分析結果の検討</p> <p>06: アクセントと声調との違い</p> <p>07: 語声調方言の音声分析 (1)</p> <p>08: 語声調方言の音声分析 (2)</p> <p>09: 上記分析結果の検討</p> <p>10: 京阪式アクセントの特徴</p> <p>11: 語彙的音調と文法的音調との違い</p> <p>12: アクセント方言談話の音声分析</p> <p>13: 語声調方言談話の音声分析</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	講義で知識を付けたのち、音声分析に臨む。 音響分析課題で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した音声データの作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	窪菌 晴夫 (2006)『アクセントの法則』(岩波科学ライブラリー118) 岩波書店						

参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』大修館書店 窪 蘭 晴夫 (1999) 『日本語の音声』(現代言語学入門2) 岩波書店 早田 輝洋 (1999) 『音調のタイポロジー』大修館書店
-----	---

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 日本語文の構造～基本文型～ 第3回 日本語文の構造～格助詞～ 第4回 格成分の主題化～コトとムード～ 第5回 格成分の主題化～コトを表す格助詞～ 第6回 格成分の主題化～ムードを表す「は」～ 第7回 格成分の主題化～主題化による格助詞の変化～ 第8回 格成分以外の主題化～4つの主題化パターン～ 第9回 二重格文 第10回 「は」の影響 第11回 日本語教育の観点からの「は」 第12回 は～が～構文 第13回 自動詞と他動詞 第14回 自他の区別 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表：・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーイーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	MJ511B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および日本語学、関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ活用していくことを念頭に、日本語学及び日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	① 客観的に母語である「日本語」を観察することができる。【知識・理解】 ② 日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。【汎用性技能】 ③ 日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ヴォイス 第3回 受身の形式と種類 第4回 動作主のマーカ 第5回 使役の形式と種類 第6回 その他のヴォイス 第7回 テンス 第8回 絶対テンスと相対テンス 第9回 動き動詞と状態動詞 第10回 テンス以外のタ形 第11回 アスペクト 第12回 金田一の動詞分類（瞬間性と継続性） 第13回 ムード〜対事的ムードと意志のムード〜 第14回 注意すべきムードの表現 第15回 複文の構造						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。（授業外学習時間2時間） 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。（授業外学習時間2時間）						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。（場合によっては学外での実習での評価も含む） 発表・授業参加・積極性：60%【到達目標①②③に関する達成度の確認】 課題あるいはレポート：40% 【到達目標①②③に関する達成度の確認】						
履修上の注意	欠席するときは必ず事前に連絡すること						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書	『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』原沢伊都夫（2010）スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-542-8						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IA／国文学演習IA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ503A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に閲覧し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	(1) 調査した書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。【知識・理解】 (2) 調査した書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。【知識・理解】 (3) 書誌情報を説明できる。【汎用的技能】 (4) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 図書館所蔵の貴重書について 第2回 『絵入源氏物語』の調査 第3回 『絵入源氏物語』についての考察 第4回 『絵入源氏物語』についてのまとめ 第5回 3種の『源氏物語かるた』の調査 第6回 『源氏物語かるた』①についての考察 第7回 『源氏物語かるた』②についての考察 第8回 『源氏物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『源氏物語かるた』についてのまとめ 第10回 『豆本源氏物語』の調査 第11回 『豆本源氏物語』についての考察 第12回 『豆本源氏物語』についてのまとめ 第13回 『絵入源氏小鏡』の調査 第14回 『絵入源氏小鏡』についての考察 第15回 『絵入源氏小鏡』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。（2時間） 事後学習：『源氏物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。 調査した作品の書誌情報を整理する。（2時間）						
授業方法	演習（調査し、整理したうえで、発表する）						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 演習の取り組み方 10% 到達目標（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	特になし。						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学演習IB／国文学演習IB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ503B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』関係資料の調査と研究						
授業の概要	本学図書館の特別書庫に保管してある貴重書を実際に閲覧し、調査して、それらの書籍・資料の性格（書誌）について考察する。						
到達目標	(1) 調査した書籍・資料がどのような性格のものか説明できる。【知識・理解】 (2) 調査した書籍・資料がどのように『源氏物語』を享受しているか説明できる。【知識・理解】 (3) 書誌情報を説明できる。【汎用的技能】 (4) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の絵巻・絵本資料についての講義 第2回 奈良絵本『伊勢物語』の調査 第3回 奈良絵本『伊勢物語』についての考察 第4回 奈良絵本『伊勢物語』についてのまとめ 第5回 3種の『伊勢物語かるた』の調査 第6回 『伊勢物語かるた』①についての考察 第7回 『伊勢物語かるた』②についての考察 第8回 『伊勢物語かるた』③についての考察 第9回 3種の『伊勢物語かるた』についてのまとめ 第10回 『伊勢物語』版本の調査 第11回 『伊勢物語』版本についての考察 第12回 『伊勢物語』版本についてのまとめ 第13回 『伊勢物語』古注釈書の調査 第14回 『伊勢物語』古注釈書についての考察 第15回 『伊勢物語』古注釈書についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：書誌学の知識を持つよう関係図書を読む。（2時間） 事後学習：『伊勢物語』の物語内容について理解し、展開がわかるように学習する。 調査した作品の書誌情報を整理する。（2時間）						
授業方法	演習（調査し、整理したうえで、発表する）						
評価基準と評価方法	演習内容のまとめ 90% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 演習の取り組み方 10% 到達目標（4）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努めること。						
教科書	特になし。						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義A/国文学史特殊講義A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学史の研究						
授業の概要	我が国の古典文学の基盤である和歌文学の史的展開について講義する。記紀歌謡や『万葉集』に始まり、『古今集』以下の勅撰和歌集の撰集、種々の私家集の編纂など、我が国の韻文の歴史をを跡付ける。特に平安時代に興隆する屏風歌や歌会、歌合に注目し、さらに、平安時代後期から鎌倉時代の歌論の展開を通して、和歌文学の実態と理論の歴史について考察する。						
到達目標	(1)和歌文学の成立や享受の様相を理解、説明できる。【知識・理解】 (2)古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 記紀歌謡について 第2回 万葉集について 第3回 国風暗黒時代の和歌と歌会について 第4回 古今和歌集について 第5回 屏風歌について 第6回 歌合について 第7回 私家集について 第8回 後撰和歌集と拾遺和歌集について 第9回 平安後期の歌学と勅撰和歌集について 第10回 新古今和歌集について 第11回 二条・京極・冷泉家の分立について 第12回 鎌倉時代の勅撰和歌集について 第13回 室町時代の勅撰和歌集について 第14回 古今伝授について 第15回 連歌と俳諧について						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱う和歌文学に関する事柄について調べて、学習する。(学習時間：2時間) 授業後学習：和歌文学史の流れを整理し、具体的な作品にも目を通す。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	レポート 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』(文英堂)978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学史特殊講義B／国文学史特殊講義B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	MJ505B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語文学史の研究						
授業の概要	物語文学の史的展開について講義する。 『竹取物語』や『伊勢物語』をはじめとし、 日本古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』などの特質を論じるのは勿論、 歴史物語や擬古物語についても具体的に論じ、 それらの物語が生み出される歴史的背景や物語の生成のあり方について考察する。						
到達目標	(1) 物語文学の成立や享受の様相を理解、説明できる。【知識・理解】 (2) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学史の概観 第2回 竹取物語について 第3回 宇津保物語などの伝奇物語について 第4回 伊勢物語について (1) 第5回 伊勢物語について (2) 第6回 大和物語などの歌物語について 第7回 源氏物語について (1) 第8回 源氏物語について (2) 第9回 狭衣物語について 第10回 堤中納言物語などの平安後期物語について 第11回 無名草子と風葉和歌集における物語への視座について 第12回 栄華物語について 第13回 大鏡などの歴史物語について 第14回 平家物語などの軍記物語について 第15回 擬古物語について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う和歌文学に関する事柄について調べて、学習する。（学習時間：2時間） 授業後学習：物語文学史の流れを整理し、具体的な作品にも目を通す。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義を中心とするが、プレゼンテーションやディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	レポート 70% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標 (1) に関する到達度の確認。 授業に対する取り組み姿勢 10% 到達目標 (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻欠席は厳に慎むこと。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIA/国文学特殊講義IIA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近代詩						
授業の概要	日本近代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を問う。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代詩とは？ 第3回 近世以前の詩 第4回 明治十年代の詩 導入 第5回 明治十年代の詩 応用とまとめ 第6回 明治二十年代の詩 導入 第7回 明治二十年代の詩 応用 第8回 明治二十年代の詩 まとめ 第9回 明治三十年代の詩 導入 第10回 明治三十年代の詩 応用 第11回 明治三十年代の詩 まとめ 第12回 明治四十年代の詩 導入 第13回 明治四十年代の詩 応用 第14回 明治四十年代の詩 まとめ 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多くの文学作品を読み、関連する映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	一部に演習を含む講義形式						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、文学作品の魅力を説得力のある形で主体的に発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本文学特殊講義IIB/国文学特殊講義IIB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	MJ502B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の近現代詩						
授業の概要	日本近現代の詩人と、その詩作品の文学的影響、価値等を考察することにより、その現代的意味を真摯に問う。						
到達目標	高校までの国語と、大学以降で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品を楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 大正時代の詩 導入 第3回 大正時代の詩 応用 第4回 大正時代の詩 発展 第5回 昭和ひとけたの詩 導入 第6回 昭和ひとけたの詩 応用 第7回 昭和ひとけたの詩 発展 第8回 昭和十年代の詩 導入 第9回 昭和十年代の詩 応用 第10回 昭和十年代の詩 発展 第11回 昭和二十年代の詩 導入 第12回 昭和二十年代の詩 応用 第13回 昭和二十年代の詩 発展 第14回 昭和三十年以降の詩 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	数多くの文学作品を読み、関連する映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、演習的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	「大学以降での研究のあり方を理解し、文学作品の魅力を説得力のある形で主体的に発信できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用						
参考書	適宜、指示する。						